

昭和館特別企画展

昭和映画録

—二度の黄金時代—



開催趣旨

昭和の時代、日本映画は二度の黄金期を経験し発展を遂げてきました。無声映画からトーキー映画に代わる1930年代、そして映画が大衆娯楽の中心として絶頂期を迎える1950年代。この黄金期の間には、戦争・占領・復興を経て変化し続ける日本社会の姿がありました。

昭和100年を迎えた今、本企画展では映画の歴史をたどりながら、社会・文化と大きく変容を遂げた昭和の時代を振り返ります。

記

【主 催】	昭和館(厚生労働省委託事業)
【後 援】	千代田区、千代田区教育委員会
【会 期】	令和8年3月20日(金・祝)～5月10日(日)
【会 場】	昭和館3階 特別企画展会場
【入 場 料】	無料
【開 館 時 間】	10時～17時30分(入館は17時まで)
【休 館 日】	毎週月曜日(5月4日(月・祝)は開館、5月7日(木)は休館)
【内 覧 会】	令和8年3月19日(木) 15:00～17:00
【所 在 地】	〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
【問 い 合 わ せ】	学芸部 吉葉・高橋 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
【交 通 (電 車)】	地下鉄【九段下駅】出口4から徒歩1分(東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線)、JR【飯田橋駅】から徒歩約10分

I. トーキーと映画革命

サイレント(無声)に対して、映像と音声を連動させた映画をトーキー(talkie)と呼びます。昭和2年(1927)、アメリカで初のトーキー映画「ジャズ・シンガー」が公開され、大ヒットを記録したことを機に、映画界ではトーキー革命が巻き起こりました。

日本で初めて本格的なトーキー映画が作られたのは、昭和6年の松竹キネマ株式会社製作による「マダムと女房」でした。従来のサイレント映画に代わり、トーキー映画が主流となるにつれ、松竹株式会社・東宝株式会社・日本活動写真株式会社(以下日活)などの大手映画製作会社を筆頭に映画の競作が相次ぎます。人気俳優や監督の登場、映画館の増加などを背景に独自のトーキー文化を築いた日本映画は、1930年代に一度目の黄金時代を迎えました。

【トピック】 サイレントからトーキーへ / 時代劇の隆盛 / トーキーと最初の黄金時代

【展示ポスター】 「君よ高らかに歌へ」 / 「丹下左膳 妖刀隻手の巻」 / 「愛染かつら全集大会」 など

	
<p>日本劇場 昭和8年に東京・有楽町に誕生した大規模劇場。映画上映の他、演劇興行も行われた。開業当時は日本映画劇場株式会社が経営していたが、経営難により後に東宝に吸収された。</p> <p style="text-align: right;">石川光陽撮影 昭和9年(1934)</p>	<p>「日本映画俳優人気鑑」 戦前から戦中にかけて活躍した人気映画俳優たちを紹介するポスター。</p> <p style="text-align: right;">昭和17年(1942)</p>

II. 戦争と統制の時代

昭和12年(1937)に日中戦争が勃発すると、映画は娯楽のみならず、国策宣伝を担うメディアとして利用されていきました。新聞や出版物など、メディアの言論統制が強化されていくなかで、昭和14年に映画法が制定されると、脚本の事前検閲、外国映画の上映などが厳しく規制されます。

戦地や銃後の様子を題材とした国策映画が多数作られる一方で、製作会社の統廃合が行われ、昭和17年には大日本映画製作株式会社(以下大映)・松竹・東宝の3社のみとなります。戦況の悪化とともにフィルムなどの物資不足が深刻となり、アメリカに次ぐ映画製作数を誇った日本映画も、その数を減らしていきました。

【トピック】 映画の戦時体制 / プロパガンダと国策映画 / 慰問と映画

【展示ポスター】 「元禄忠臣蔵特報 第五報」 / 「陸軍」 / 「かくて神風は吹く」 など

	
<p>浅草六区で行われた防空訓練・浅草 浅草六区にある映画館・千代田館で行われた防空訓練の様子。看板の「熱砂の誓ひ」は昭和 15 年に公開された李香蘭主演の国策映画。 石川光陽撮影 昭和 16 年（1941）10 月</p>	<p>作文綴り「映画『海軍』をみて」 世田谷区立代沢国民学校（現・世田谷区立代沢小学校）の 6 年生児童が、昭和 18 年に公開された松竹の「海軍」を観て書いた感想文。綴った後は親にも回覧し、感想が記されている。 昭和 18 年（1943）12 月</p>

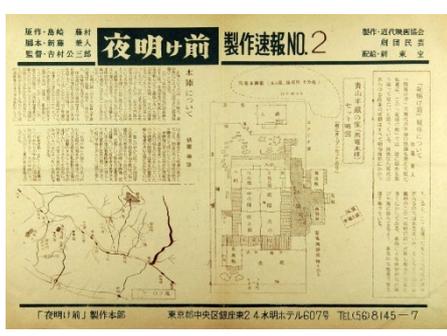
Ⅲ. 復興・再びの黄金時代

昭和 20 年(1945)9 月、映画界は GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の下部組織である CIE(民間情報教育局)の管理下に置かれることになりました。脚本の検閲のほか、軍国主義や仇討ち物などの映画の上映が禁止となります。また、昭和 21 年には GHQ の外郭団体として設立したセントラル映画社(CMPE)により、国内でのアメリカ映画の上映が解禁され、映画は占領政策の一環として活用されました。

厳しい管理下の中で、戦災により減少していた映画館の数が増えるにつれて、国内の映画製作数も増加していきました。終戦・占領を経て迎えた独立後、日本の映画産業は再び勢いを取り戻し、未曾有の好景気を迎えます。昭和 33 年には観客動員数が歴代最高を記録し、日本映画に再び黄金時代が訪れました。

【トピック】 映画と占領政策 / 日本映画の復活 / 映画の広がり—文化の大衆化 / 日本映画時代の到来

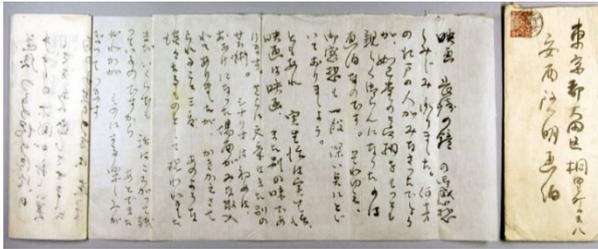
【展示ポスター】 「黄金狂時代」 / 「羅生門」 / 「君の名は 第 2 部」 / 「ビルマの豎琴」 など

	
<p>映画「銀座カンカン娘」の撮影風景 映画「銀座カンカン娘」は、ミュージカル調の喜劇映画。主題歌「銀座カンカン娘」は主演の高峰秀子が歌唱し大ヒットを記録した。奥に見えるのは高峰秀子(左)、岸井明(中央)、笠置シズ子(右)。 昭和 24 年（1949）</p>	<p>「夜明け前 製作速報 No.2」 「夜明け前」の製作に関する事前広告。撮影セットやロケ地などが紹介されている。 昭和 28 年（1953）10 月以前</p>



○「長崎の鐘」関連資料

『長崎の鐘』は戦後初の原爆を扱った本として、昭和 25 年に映画化されました。本展示では同作の映画ポスターや、関連する所蔵資料を公開します。



手紙

永井隆が日本画家の安西啓明に宛てた書簡。映画「長崎の鐘」と原作との相違を指摘する安西に対し、永井が映画の内容と実生活は別物であると諭している。

昭和 25 年 (1950) 10 月 3 日

○キネマベストテン〈外国映画〉1位作品、パンフレット一挙公開

キネマベストテンは映画雑誌『キネマ旬報』が選出する日本最古の映画賞です。戦時中に一時中断を余儀なくされましたが、昭和 21 年の復活を機に現在まで続いています。

本展示では、昭和 21 年から昭和 30 年までの外国映画部門1位に輝いた作品のパンフレットを一挙に公開します。



イベント情報

① ワークショップ ミニ映写機をつくろう

日時:令和8年4月4日(土)、4月18日(日)

① 10:30~12:00 ②13:30~15:00

場所:昭和館3階会議室

対象:小学生以上 ※事前申込制

② 担当者による展示解説を行います。

日時:令和8年3月29日(日)、4月12日(日)

14時30分~(所要時間30分)

会場:昭和館3階特別企画展会場

③ 映画上映会

演目:「麦秋」(昭和 26 年公開・松竹映画・監督:小津安二郎)

主演:原節子、佐野周二ほか

日時:令和8年4月26日(日)13:30~(受付・整理券配布13:00~)

場所:1階ニュースシアター

人数:50名 ※当日先着順

※情報の掲載にあたっては、担当まで必ずご一報下さい。

【問い合わせ】

担当:昭和館学芸部 TEL:03-3222-2577